

☆宇治っ子朗読劇団☆Genji『源氏物語宇治十帖朗読劇』

緞帳が上がると、美しい平等院（絵）が舞台中央に浮かんでいます。

そこへ、十二単を着たガイドさんに連れられて、平等院見物ツアーの人たちがやってきます。皆、平安時代のきらびやかな衣装を着て登場します。

「閑白って何？」「別荘なのにお寺？」「末法思想って？」etc. 稽古の過程で子ども達から出てきた疑問を劇の中に織り込んだのでしょうか。その疑問に答えるという形で劇を始め、宇治の歴史と源氏物語のつながりを説明しつつ「宇治十帖」の世界につながる方向はよかったと思います。ただ、時代設定が平安時代なのか現代なのか、曖昧さを残したまま進行していくので、一定の線引きがほしいと思いました。

宇治十帖を現代文で解説し、子ども達が身体で表現する場面も入れて、わかりやすく進めようとしておられたので、退屈することなく観られました。

子ども達の朗読や動きは一所懸命で好感が持てました。平安時代の貴族の衣装を身に着けることで、衣装にも背中を押されてがんばっていました。

今回は大人の出演をやめて、子どもだけで進めたこともよかったと思います。

去年、紫式部の役をやり、今年はガイド役をした人は張りのある声で、とても上手だと思いますが、セリフが昨年より詠嘆調になっていたのが少し気になりました。それは、他の出演者にも共通しています。表現しようという気持が膨らんで、そうだったのだと思いますが、改めて考えて欲しい課題です。

また、和歌を読む時に古典的な言葉のリズムをもう少し大切に読んで方がよかったのではないのでしょうか。そのリズムをつかむのは難しいと思いますが練習を重ねてほしいと思いました。

場面の作り方で、二人の男の恋のさや当てを人物を動かし、裏と表で表現したところは面白かったです。感情を具体的に目に見える形で表現する手法は意味をしっかりと伝えていていいですね。途中4人の女召使いが登場しましたがドラマ作りとしてはこの4人をコロスの的に使って劇を進行する方法もあると思いました。

最後に皆で並んで声を合わせて群読したところは迫力があり、日本語の音の重なりが美しく、とてもよかったです。この場面が一番心に残っています。

最後の群読を聞いて思ったのですが、舞台上で動くことを減らして朗読に集中した劇づくりもいいのではないのでしょうか。

2年連続で出演しているメンバーも何人かいて、この朗読劇への参加が子どもたちにとって大切な時間になっているのだと感じました。男子の演劇離れが著しい今、続けて参加している男子がいることはとてもとても嬉しいことです。

去年、声も身体も小さかった子ども達が大きな声を出し、背も伸びて一回り成長した姿を見せてくれるのは演フェスならではの光景です。子ども達が舞台表現と共に成長することで、これからの彼らの人生が豊かになってくれることを願います。

がんばった子ども達と指導された方に拍手を送りたいと思います。お疲れ様でした。

（講評者 「読み語り 円座」大原めい）

宇治っ子朗読劇団☆GENJI「宇治十帖ものがたり～「源氏物語」より～」

この劇団の誕生の由来から考えると源氏物語-宇治十帖しか読まないのは仕方ないのかな。でも劇団としてメンバーが固定しているのなら創造的につらくないのかな等と勝手に思ったりしてました。が今回改めてきいてみますと、新しいメンバーも加わるし月2回の練習日ということなので、これは毎回大変だな、非常にきびしい中で創り上げているんだなという思いを強くしました。

さて、今回は平等院鳳凰堂が平成の大修理を終えて平安時代の建立当時の姿にもっとも近くなったということで、その観光ガイドから始まりましたが、これは導入としては分かりやすく良かったです。

「宇治十帖」の朗読はこれまでの舞台と同じように小学生の男の子が薫と匂宮、そして浮舟、召使たちときれいな衣装で読む姿は可愛らしくまたほほえましいものでした。会話のときは現代語、ト書きは口語体の訳、そして最後には冒頭の部分を少しだけですが原文で聞かせてくれました。

少し緊張しながら、しかし内容はいわば色恋ばかりなのでテレくさそうに、でも一生懸命に語る子どもたちを見ていてふと思います。この子たちはこの物語をどんなふうに理解しているのかな、どこに興味を感じてしんどい稽古をがんばってこれたのかな等々。

子どもたちと一緒に何かをやろうとする時一番むずかしいのは自主的なやる気をどう引き出せるかですね。私はこの舞台を見ていて”やらされている”という感じはあまりうけません、これからどう発展させていくのかを考えると、どうしてもその事が気になります。児童青少年部門に参加しているのですから。

申し訳ないのですが、私は源氏物語について映画で見たか、一部分を読んだかぐらいで全部を読んだ事ありません。世代を問わず大部分の人がそうではないかと推測します。そんな現状から考えますと”古典を根付かせ次世代に継承していきたい”という講座の趣旨や劇団の目的もとても大切な意義のある事だとは思いますが、ただこれからどの方向にいくのか、今のかたちをそのまま踏襲していくのか、大いに考えていただけたら幸に思います。

どうぞこれからも励んでください。

人形劇団京芸 田山桂子